

《担当者名》 福間 麻紀 m-fukuma@hoku-iryu-u.ac.jp 奥田 かわり 片山 寛信 大原 裕介(客員) 高野 和美(非)

【概要】

ソーシャルワークに求められる知識と技術について実践的に習得し、専門的援助技術として体系化できる能力を身につける科目である。実践を行うための基本的な知識・技術として、グループワーク、ソーシャルワークの展開過程、記録の技法、面接技術について学ぶ。また、地域における社会資源の基盤整備の実際を知り、社会資源を実践的に活用するためのスキルを習得する。

【学修目標】

1. ソーシャルワークの展開過程を理解し、その段階に合った支援をソーシャルワークの目的・価値・倫理を踏まえて考えることができる。
2. アセスメントやプランニングに必要な知識と技術を習得し実際に作成することができる。また、ジェノグラムとエコマップを作成し、ポイントを説明することができる。
3. 個別面接技術・集団面接技術をロールプレイ場面で実際に使用することができる。
4. 地域福祉の基盤整備と資源開発、社会資源の活用について、事例を用いた具体的な評価・計画立案を行うことができる。
5. 観察した場面を適切に記録することができる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	グループワークの共通技術 1	グループワークの実践を通じて、プログラムの立案・ファシリテーターの役割や方法を理解する。	福間 奥田 片山 高野
2	グループワークの共通技術 2	グループワークの実践を学ぶ。 ファシリテーターとしてグループワークの実践を行うことができる。 単元終了課題 グループワーク実践の感想	福間 奥田 片山 高野
3	ソーシャルワークの展開過程 1 エンゲージメント(インテーク)	個人とのソーシャルワークにおけるインテークの方法を説明できる。 事例を用いたインテーク場面において面接技術を用いて面接を展開できる。事例の登場人物の心情を理解する。	福間 奥田 片山 高野
4	ソーシャルワークの展開過程 2 アセスメント	アセスメントにおける情報収集の項目・方法を説明できる。 アセスメントの項目に沿って、事例の情報を整理できる(アセスメントシートの作成)。	福間 奥田 片山 高野
5	ソーシャルワークの展開過程 3 アセスメント	事例のエコマップ、ジェノグラムを作成し、情報の整理分析を行うことができる。 事例の情報の分析から、客観的ニーズ判断を示すことができる。	福間 奥田 片山 高野
6	ソーシャルワークの展開過程 4 プランニング	アセスメントをもとに、事例の支援目標を設定できる。 アセスメントをもとに、事例の支援計画を作成することができる(プランニングシートの作成)。	福間 奥田 片山 高野
7	ソーシャルワークの展開過程 5 支援の実施	支援の実施とモニタリングについて説明できる。 支援の実施の面接を行うことができる(ロールプレイ)。 模擬事例の直接的活動と間接的活動について整理できる。 実際に支援の評価を行うことができる。	福間 奥田 片山 高野
8	ソーシャルワークの展開過程 6 支援の終結 アフターケア	終結の決定、終結に向けての準備、終結後のフォローアップについて理解し、終結の面接を行うことができる。 事例全体の振り返りを通して、相談援助の全体を説明することができる。	福間 奥田 片山 高野

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		単元終了課題 アセスメントシートの作成（事例）	
9	地域福祉の基盤整備と開発の実際	地域住民の対するアウトリーチとニーズ把握の実際を学ぶ。 災害時の被災者ニーズの把握と支援活動の実際を学ぶ。 単元終了課題 講義内容のまとめと感想	大原 奥田 福間 片山 高野
10	社会資源の把握・活用・調整・開発 1	事例を読み、社会的孤立がもたらす問題について気づくことができる。 本人、家族、地域住民の立場から、何が問題なのか具体的に説明することができる。 地域の社会資源の状況を把握するために、エコマップを作成することができる。	福間 奥田 片山 高野
11	社会資源の把握・活用・調整・開発 2	事例を読み、ひきこもり支援について考えることができる。 関係者会議の準備として、役割となった組織や活動の内容を考える。	福間 奥田 片山 高野
12	社会資源の把握・活用・調整・開発 3	関係者会議の場面のロールプレイを行う。 参加者の考えや気持ちの変化についてとらえることができる。	福間 奥田 片山 高野
13	社会資源の把握・活用・調整・開発 4	関係者会議の協議をふまえて、活動計画を作成する。 単元終了課題 「ネットワーク会議」の内容作成	福間 奥田 片山 高野
14	記録の技法1	記録の意義と活用を理解する。 ロールプレイを観察し、記録を作成することができる。 単元終了課題 実習記録の作成	福間 奥田 片山 高野
15	面接技法	ソーシャルワーク演習 で学習した面接技術を確認し、面接場面において適切な技術を意図的に使用することができる。	福間 奥田 片山 高野

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

課題5回（50％）、事前学習・グループへの参加度（意欲・姿勢）（50％）、

課題：各単元の課題内容に従いレポート提出（各単元の欠席が過半数に達した場合は受理しない）

【教科書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『7 ソーシャルワーク演習【社会専門】』中央法規（2021）

初回講義時にプリントを配布

【参考書】

日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『12 ソーシャルワークの理論と方法【共通科目】』中央法規（2021）

【備考】

・原則20名以下のグループで学習する。

・各単元のレポートにより学習到達度を評価する。なお単元課題を受験するためには、各単元において過半数以上の出席を要する。

・演習という授業の性格上、遅刻は欠席扱いとする。

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得のための「ソーシャルワーク演習（専門）」に該当する。

【学修の準備】

・予習として、次回の授業で取り扱う事例を読みこみ、援助技術や用語については教科書や参考書、辞書等を用い、事前に調べてくること。（30分）

・復習として、授業後は毎回必ず振り返り、知識や技術が定着するよう取り組むこと。（30分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2： 福祉専門職に必要な知識・技術を修得し、健康や生活に関する問題に対して、適切かつ柔軟に判断し解決できる学術的・実践的能力を身につけている。

DP3： 社会環境の変化や保健・医療・福祉の新たなニーズに対応できるよう自己研鑽し、自らの専門領域において自律的・創造的に実践する能力を身につけている。

【実務経験】

福間麻紀（社会福祉士）、奥田かおり（ソーシャルワーカー）、片山寛信（社会福祉士）、大原 裕介（社会福祉士）、高野和美（社会福祉士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、相談支援機関、教育機関、社会福祉施設等でのソーシャルワーカーとしての実務経験を活かし、実際の相談援助過程を想定した課題別の相談援助事例による総合的・包括的な援助についての実践的な講義や実技指導を行う。